

平成27年度大型再処理施設放射能影響調査事業評価結果
(大型再処理施設放射能影響調査交付金事業企画評価委員会)

調査事業名	総合評価
①環境影響に関する調査研究 (公益財団法人環境科学技術研究所委託事業)	A
[委員長とりまとめコメント] 住民被ばくの線量評価と環境中の放射性同位体に関する幅広い内容の研究を着実に進め大きな成果が得られている。また、人体内の代謝機能の実験も非常に興味深い結果が得られている。 平成2年からの研究の積み重ねが、放射線に対する理解の向上の一助となり、原子力施設に対する安全・安心につながっているものであり、今後も継続してこれらの調査を進め、その成果が広く世界に知られ、活用されることを期待する。	
調査事業名	総合評価
②環境影響に関する調査研究 (公益財団法人日本海洋科学振興財団委託事業)	A
[委員長とりまとめコメント] 海洋での放射性物質の移行に関して様々な興味深い結果が得られている。本調査は、再処理工場からの海洋での拡散状況を把握するために重要であり、海上安全技術研究所等の結果とも連携して、総合的な研究成果を得ることを期待する。 今後は、これまでのデータを元に、海流や気象条件等の把握が難しい状況下においても、モデルの妥当性の検証を継続するとともに、海洋生物の生活史を考慮した生態系及び線量評価モデルの整備にあたっては、一層の具体的な研究成果の獲得に注力することを期待する。	
調査事業名	総合評価
③生物影響に関する調査研究 (公益財団法人環境科学技術研究所委託事業)	A
[委員長とりまとめコメント] 明確な目標設定を立て、着実に調査が実施されており世界的に見て貴重な成果が得られている。これらの成果がICRP等の防護の分野で生かされることを期待する。また、低線量被ばくの人体への影響調査を継続し、検証を継続していくことが、安心感醸成につながるものと考えられる。	
調査事業名	総合評価
④小児がん等がん調査事業 (青森県健康福祉部所管事業)	A
[委員長とりまとめコメント] 平成12年からの長期にわたる地道なデータの蓄積により、貴重な小児がん罹患率のデータベースが構築されている。このような調査は極めて意義深く、全国のがん登録や学会のがん登録との連携をさらに進めながら今後も継続することを期待する。	

(参 考)

評価の視点	評価の尺度
(1) 優れた研究成果が上がっているか？ (2) 地域の期待に応えているか？ (3) 社会的ニーズに合致した成果が挙げられているか？	S：想定を上回る優れた成果を挙げている。 A：中長期計画に基づき、着実に成果を挙げている。 B：中長期計画どおりに成果を挙げているとは言えない面もあるが、今後の取組みにより中長期計画に基づく成果を達成し得ると考えられる。 C：中長期計画に基づき成果を挙げるためには、実施方法等の大幅な見直しが必要である。